

緑化だより

No.42 平成21年9月号



アケボノソウ 平成20年9月18日撮影

○虹色きのこ
○植物と歴史
○花だより

○研修会・イベント報告
○研修会・イベント紹介
○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



虹色きのこ

(5) 青色

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがあります。

ソライロタケ(空色茸)

全体が空色の美しいきのこなのですが、なかなか出会うことがありません。さらに残念なことは、触ったり傷ついたりした部分は黄色く変色するのです。空色の美しさを観賞するには、触らず眺めるだけにしなければいけません。食毒不明です。

アオロウジ(青老人)

傘の表面は空色～青緑色ですが、のちに色あせると灰褐色になります。美しい色は、長続きしないようです。傘の裏は、ひだではなく管孔状になっています。マツ林に発生し食用になります。

アオゾメタケ(青染茸)



アオゾメタケ※1

主に針葉樹の枯れ木上に発生するサルノコシカケ科のきのこです。傘は白色ですが成熟すると青みを帯びることが多いようです。褐色腐朽、すなわち材のセルロースを分解するきのこです。不食です。

※1: 写真は家の光協会出版「きのこ図鑑」より



ソライロタケ

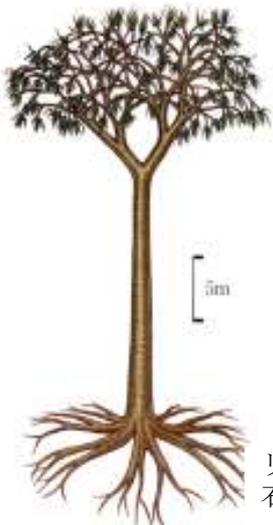


アオロウジ※1

植物と歴史

『進化—裸子植物の繁栄』

陸上に動物が上がったのは、その前に陸上に植物が茂り、動物が生存していくために必要な食料が豊富になってきたからで、植物はデボン紀から石炭紀にかけて、シダ植物に多くの種類が出現しています。化石から現在見られるシダのように小形のものだけではなく、巨大なものは高さ 30m、根元の直径 1 m に達するものもあったようです。ロボク(Calamites)・リンボク(Lepidodendron)・フウインボク(Sigillaria)などは、これらシダの大木のなかまです。このようにシダの大木が繁茂したのは、石炭紀の気候が一般に暖かかったためですが、石炭紀後半から次のペルム紀(二畳紀)になると寒冷化して行き、それらは絶滅して行きました。原因としては、石炭紀の初めは、二酸化炭素濃度が現在の 10 倍程度あり、温暖でしたが植物の光合成によって二酸化炭素が急減したために寒冷化が進んだためと考えられています。このことで、光合成産物の一部は膨大な量の石炭となりました。石炭紀は酸素濃度も高く、石炭紀のシダの森林の間を、羽を広げると 1m もあるような大きなトンボなどの昆虫が飛びまわっていました。ペルム紀になると木本性シダ植物は衰退し、石炭紀に多様化を始めていた裸子植物が森林を形成し、繁栄しました。



リンボク※

石炭紀の森林を形成した高さ 20~30m にもなるシダ植物



[2m

アルカエオプテリス※
カナダのデボン紀から発見された化石。最初の森林をつくったシダ植物のひとつ。

※2: 出典 ロボク (カラミテス Calamites)

花だより

シマサルスベリ ミソハギ科サルスベリ属

サルスベリは夏に咲く代表的な樹木の一つです。庭木や公園など色々な場所に植栽され、白や紅色、淡紫色などの花色があります。品種改良により、様々な花色や矮性品種などもあり、花の少ない季節に彩を添えています。別名、**百日紅**(ヒャクジッコウ)とも言い、花期が長いことにより、センターの**サルスベリ**は、8月に入る頃開花



シマサルスベリの花

しますが、**シマ**

サルスベリは8月末～9月にかけて開花します。

シマサルスベリは、サルスベリの仲間で屋久島や種子島、沖縄、台湾などの山地に生える落葉高木で、生育地が南方なので『**シマ**』が付いたと言われていています。別名**タイワンサルスベリ**とも言われています。特徴は、①幹は直立し、樹皮は赤褐色でやや大きめの薄片となって剥げ落ち、灰白色になる ②葉の先端はとがり、2～3 mmの短い葉柄があり、短毛が生える ③花は白く、1.5～2cm と小さい になります。

沖縄の方言では、『**シルハゴーギ**』と言い、「**シル**」は白い、「**ハゴーギ**」は汚い木という意味のようです。沖縄の人は幹の皮が剥げた様子を汚いと感じたのかもしれませんが。沖縄では、サルは身近な生き物ではなく、ペットや動物園以外では居ないそうです。



シマサルスベリの葉



シマサルスベリの幹肌

研修会・イベント報告

8月8日(土) 『美しい変形菌の世界』

緑化センターで初めて開催した内容ということで、参加者がどのくらい集まるか心配ではありましたが、31名と予想以上に多くの方が参加されました。

『**変形菌**』という言葉は聞いたことがないという人や、何か得体の知れないものという印象を持つ人もおられたようですが、それだけに興味津々という面もありました。

座学では、変形体の動きを微速度撮影されたビデオを見ましたが、アメーバー状のものが、きのこの子実体を覆い、食べていくさまは、ホラー映画のようでショッキングでした。

野外観察では、倒木の表面や落葉の表面に子実体を作っている変形菌を観察しました。ふだんよく歩く道ですが、全く気にもとめていない場所でした。こんな所に人知れず子実体を作っていたのかという思いでした。きのこ観察と違い、一つの場所に居座って、切り倒した株や落葉の裏側など観察していく、変形菌観察には忍耐力も必要になってきます。

新しい発見の多い研修会でした。



緑化研修会:美しい変形菌の世界

研修会・イベント紹介

緑化センターの研修会に参加していただく『森づくりポイント』が付与され、ポイントを貯めると間伐材のイスと交換することができます。詳しくは、「ひろしま森づくりコミュニティーネット」をご覧ください。「ひろしま森づくり」でWEB検索するか、<http://mori-hiroshimacity.genki365.net/>をご覧ください。

○9月11日(金)『9月の自然探勝』10:00～12:00 管理事務所前集合

講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生

残暑の厳しい時期ですが、森林浴をかねて林内を散策しませんか。

○9月17日(木)『アロマセラピーでリフレッシュ』10:00～12:00 学習室集合 **要予約先着20名**

講師:アロマイストラクター 森下 芙巳子 先生

植物を利用し、セルフケアを体験する研修会です。植物の効能で、リラクゼーションしましょう。

○9月25日(金)『秋の七草と植物観察』10:00～12:00 学習室集合

講師:緑化センター職員 正本 良忠

秋の七草について学習した後、外に出て植物観察を行います。秋の植物を観察しましょう。

○9月27日(日)『樹木治療あれこれ』10:00～12:00 学習室集合

講師:樹木医 堀口 力 先生

樹木の治療を中心に、被爆樹木や樹木医の活動などを紹介します。

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 開園30周年前年イベント

9月13日(日)に『開園30周年前年イベント』を10時からレストハウス前で開催します。クイズラリーや樹木クイズ、オリジナルしおり作りなどのイベントのほか、草花のプレゼントもあります。当日は、広島市森林公園との間に無料送迎タクシーを運行します。

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

○愛鳥週間原画コンクール優秀作品展

8月25日(火)～9月9日(水)

子供達が描いた野鳥の絵をお楽しみ下さい。

○ボタニカルアート展

9月11日(金)～10月4日(日)

植物を実寸大で描いた線密画を展示します。丁寧に描かれた植物画をご覧ください。

○古布を使った作品展 8月22日(土)～9月27日(日)

◎ 『きのこ祭り』開催

10月10日(土)～10月18日(日)は、『きのこ祭り』を開催します。期間中は、きのこに関する研修会のほか、きのこクイズやきのこ汁のサービスを予定しています。きのこの鑑定はいつでも受け付けています。

◎ 施設の利用について

会議や趣味の会などご利用下さい。40～50人が利用できる学習室や10人程度の相談室のほか、駐車場やグラウンドの利用も可能です。利用料は無料ですが、営利目的の使用はできません。予約や占有許可申請が必要になりますので、事前にお問い合わせ下さい。



ボタニカルアート:ハンカチノキ

